

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第14回地域生活部会議事録

文責：小林（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第14回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和7年1月21日（火） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	小松代 菜央	大場 貴弘	橋本 朋子
	広瀬 健次郎	小野 英次郎	南雲 好晶	青山 明子
	平井 有希子	小林 寿江		
	区事務局：土岐 親跡 齋藤 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認、書類確認</li> <li>・部会のスケジュールの確認、前回のご意見カードの報告</li> <li>・司会 - 伊藤部会長 書記 - 小林委員</li> </ul> <p>(2) 令和5・6年度の活動について</p> <p>「10年後も住み続けたい大田区へ～世代を超えて知る機会を～」</p> <p>◎今年度の活動まとめ</p> <p>○乳幼児期から学齢期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族は、障がい種別によって障がいに対する受け止め方が異なるため、情報収集の仕方や情報量、関係者との関わり方が変わってくる。 ⇒同じような立場の母や支援機関とつながることで孤立感や閉塞感が薄まる傾向にある。</li> <li>・知人の口コミや母同士の情報によって必要な支援機関とつながる場合が多い。</li> <li>・進学先（特別支援学校、特別支援学級、普通級）によって得られる情報量（学齢期や成人期において生活が変化してくる。）は異なる可能性がある。</li> </ul> <p>○成人期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人期へ移行する前に必要な情報を整理することが重要。 ⇒家族会や計画相談支援（障害児相談支援）の活用が課題。</li> <li>・住居や就労等の支援機関とつながっている方は、より正確な情報を得て充実した暮らしを実現できる。</li> <li>・障がい種別によっては住環境の情報を広域的に調べる必要がある。</li> <li>・住環境を整える際は、医療機関と情報のやり取りが必要。</li> <li>・多様な就労希望に合わせて情報の整理が必要。</li> <li>・就労先や就労支援、住環境（施設、家族）および関係機関（計画相談、行政）と双方に情報交換し連携することが重要。</li> </ul>			

○高齢期

- ・親からいかに情報を受け取るか（親亡き後を見据えて）
- ・本人がいかに権利擁護について受容しているか。前段階として親が情報を備えておく必要がある。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行で関係機関との情報のやり取りが必要。

2 その他

- ・今後の予定

2月：今年度の活動まとめ

「乳幼児期～高齢期までをとおして見えたこと」

「令和7・8年度に向けて」

次回開催日

作業部会 2月4日（火）は中止

専門部会 2月18日（火）